

[成果情報名] 農業法人従業員における仕事と家事・育児のしやすさに影響する職務満足要因

[要約] 職場環境が「家事・育児と両立しやすい」と感じる法人従業員は、「勤務時間」と「家族的な管理」に満足度が高い。また、家族構成が夫婦のみ、独立希望者は「家事・育児と両立しにくい」と感じる傾向にある

[キーワード] 法人従業員、職務満足、ワーク・ライフ・バランス

[担当] 三重県農業研究所 地域連携研究課

[分類] 研究

---

## [背景・ねらい]

共働き世帯の増加や少子高齢化、人口減少、個人のライフスタイルの変化などの社会的変化を受けて、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現が喫緊の課題となっている。

農業においては、農業労働力の減少が進むなか、法人等に就職する「雇用就農」が増加している。全国の39歳以下の新規就農者は毎年1万3千～5千人で、うち雇用就農者は3～4割を占める。特に三重県では39歳以下の新規就農者に占める雇用就農者の割合は6～7割と高く、地域農業の担い手を確保するために、法人における適切な労務管理が重要である。しかし、雇用就農者の家事・育児との両立を前提とした労働環境についての先行研究はない。

そこで、本調査では三重県内の農業法人31社の正社員を対象に「家事・育児する人にとって働きやすいと感じる意識」を取り上げ、その意識と農業法人の労務管理施策に対する満足度がどのように影響しているのかを明らかにする。

## [成果の内容・特徴]

1. 法人従業員104人のうち、男性は83%、女性は17%であった。年代は20代37%、30代28%、40代15%、50代14%、60代9%である。また、家族構成は独身41%、夫婦のみが13%、夫婦と子どもが22%、その他17%となり、20～30代の独身男性が多い(図表省略)。
2. 各職務満足項目のうち「協調性」、「おもしろさ」に関する満足度が高く、「休日休暇」「負担感」に関する満足度が低い。家事・育児と両立しやすい職場かどうかについては、「どちらでもない」が35%と多く、「ややそう思わない」13%、「そう思わない」18%と、3割の従業員が仕事と両立しにくいと感じている(図1)。
3. 家事・育児と両立のしやすさには、勤務時間および家族的な管理が正の影響を、家族構成が夫婦であること、就業動機が独立希望であることが負の影響を及ぼす。多くの既往研究において、勤務時間の多さが両立の妨げになると指摘されており、今回の分析結果においても規定要因であることが確認できる。また、「家族的な管理」、すなわち従業員一人一人の事情に応じ柔軟な対応がされていると働きやすいと感じていた(表1)。

## [成果の活用面・留意点]

1. この成果は、農業法人等が労務管理の改善を行う際や、担い手確保対策を実施している行政担当者が事業を立案する際に参考となる。

[具体的データ]

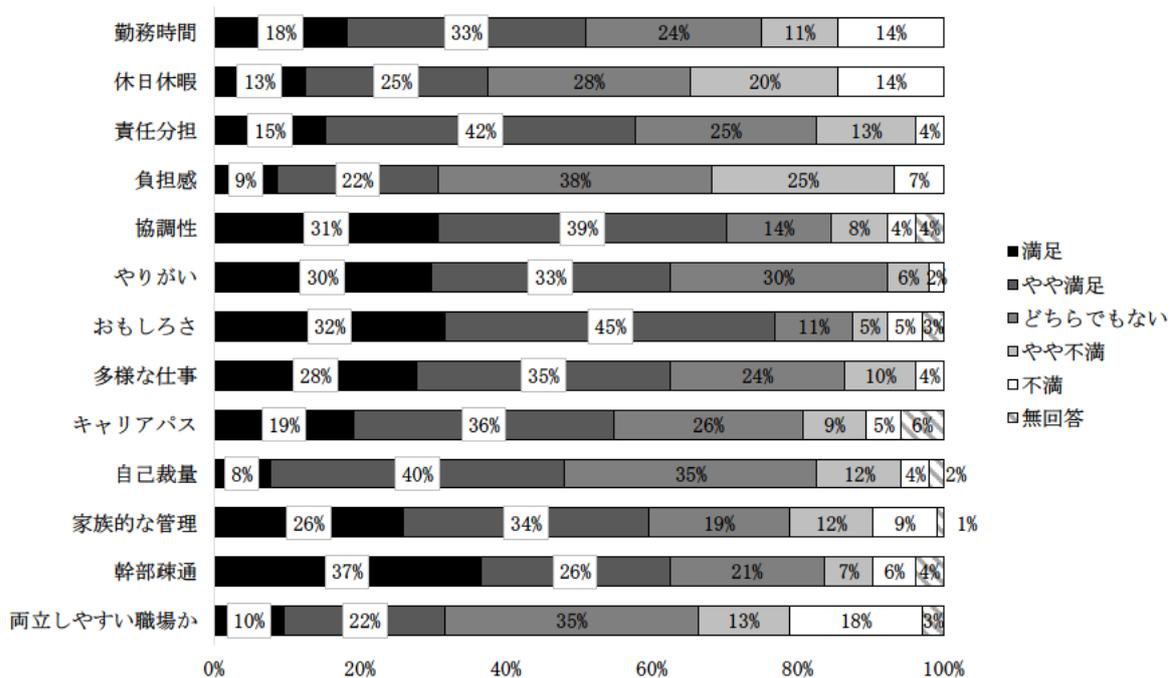


図1 各職務満足項目および働きやすさに関する満足度

表1 仕事と家事・育児の両立しやすさ要因分析

変数名	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰係数	t 値	判定
勤務時間	0.526	0.086	0.557	6.118	**
多様な仕事	0.151	0.100	0.140	1.509	
自己裁量	-0.247	0.135	-0.193	-1.828	
家族的	0.207	0.100	0.215	2.076	*
責任分担	-0.191	0.131	-0.158	-1.456	
家族構成 夫婦	-0.605	0.301	-0.165	-2.010	*
就業動機 独立希望	-1.022	0.378	-0.229	-2.703	**
定数項	1.542	0.493		3.126	
自由度調整済決定係数	0.447				

注1: 被説明変数を両立のしやすさとし、職務満足12項目、性別、年代、出身地、家族構成、就業動機を説明変数とした重回帰分析を行った

注2: 記載事項の揃っている92名分のデータを分析に使用

注3: 投入した説明変数のうち、「性別」「年代」「家族構成」「出身地」「就業動機」は該当の有無による1-0の変数である

注4: \*\*は1%、\*は5%水準で有意であることを示す

(飯場聡子)

[その他]

研究課題名: 新たな農業の担い手発掘事業

予算区分: 県単

研究期間: 2013~2016 年度

研究担当者: 飯場聡子